



親から子へ、そのまた子へと受け継がれていく伝統。
郷土愛や自然への感謝、仲間との絆を体現する大切な松山の祭り。

Traditional festivals and handicrafts, all with their own historical reminders, are carefully preserved.



松山春まつり

「お城まつり」と「道後温泉まつり」を総称した松山の春の祭典。殿様や姫君が練り歩く大名武者行列は壮観。



鹿島の櫓練り

鹿島神社の神事で、河野水軍の戦勝祈願がルーツとされています。古式にのっとった勇壮な行事です。



松山野球拳おどり

昭和41(1966)年から始まった松山の夏祭り。市民による野球拳おどりなどで盛り上がります。



一体走り

勝岡八幡神社の秋季祭礼で行われる大迫力の行事で、神輿を揺らす美しい姿勢で疾走する様を眺めます。



興居島の船踊り

伊予水軍が興居島に凱旋した際、船上で舞い踊ったのが始まりとされる郷土芸能。



初子祭

旧暦11月の初子の日に、道後・冠山の湯神社で開催されます。縁起餅まきや福引などで大いに賑わいます。



港町で生まれ
受け継がれた
庶民の娯楽



伝統をつなぐ暮らし

Tradition

芸能・祭り・工芸
松山の伝統を受け継ぐ

大切に受け継がれてきた 伊予源之丞を次代へ

江戸・明治時代に普及した庶民の娯楽といえ、人形浄瑠璃。松山市では三津浜地区に拠点を置く伊予源之丞保存会が活動中だ。その前身である「宝来座」は、明治の初め、三津で荒物屋を営んでいた宝来屋新三が立ち上げた。「それ以前、不景気を吹き飛ばそうと三穂神社(三津恵美須神社)の祭礼に淡路島の人形芝居を呼んだそうです。それが良かったのでしょね。地元住民たちが、一座を組んだようです」と話すのは、保存会の岡田正志さん。「宝来座」はなかなかの人気だったようで、県内はもちろん、九州や上海にまで巡業する人気一座に。しかし大正時代に朝鮮巡業に失敗し、解散してしまっ

た。それでも三津浜地区の人たちは人形浄瑠璃に愛着を持っており、昭和の初めに一座を再結成した。戦後は「宮前文化保存会(後に伊予源之丞保存会に改称)」として活動を再開。県の無形民俗文化財に指定されるなど、脚光を浴びた。昭和49(1974)年には芸能使節団として、アメリカ公演にも参加した。

「保存会は明治時代から受け継いだ貴重な人形の頭を所蔵しています。これらを生かすためにも仲間を増やしたい」と話す岡田さん。伊予源之丞では3人1組となつて1体の人形を遣う「三人遣い」が基本。語りを担当する太夫、三味線、太鼓や笛を演奏する囃子方も必要だ。しかも大道具、衣装や小道具の世話など、表も裏もたくさん人間が舞台を支えている。その仲間づくりをし、次世代へ継承したいと近年は子どもたちに興味を持ってもらえるよう分かりやすい筋立ての新作をつくり、ワークショップを開催したり、裾野を広げるための活動にも力を入れている。「松山市にこのような素晴らしい芸能があることを知ってもらいたい」と力を込めて話す岡田さんだ。



1958年に人形役者たちの追善芝居が行われた際に掛けられた看板。人形浄瑠璃が地域の大切な宝であったことがうかがえる

Profile

伊予源之丞保存会 会長
岡田 正志 さん
Masashi Okada

伊予源之丞は人形遣いや語りを担当する太夫、三味線、太鼓や笛を演奏する囃子方など、仲間たちが役割分担をして運営。大道具、衣装や小道具の世話も自分たちで担っている



Registered as a UNESCO Intangible Cultural Heritage, the Bunraku Ningyō Joruri puppet theater troupe holds regular performances, carefully passing on its techniques and traditional tools. They are also active in developing new contemporary-style programs.

想いに満ちた“モノ”語り

モノは、人の想いそのもの。
郷土で生まれた工芸品から、想いが伝わってきます。



伊予絣

藍色の美しさが魅力
久留米絣、備後絣と並び「日本三大絣」に数えられる工芸品。鍵谷カナが考案した独特の模様の特徴です。



姫だるま

愛媛を代表する工芸品
女兒の誕生祝いとして愛されてきた縁起の良い人形。伝統工芸士が福々しいお顔を描き上げています。

伊予竹工芸品

手作りの優しさにほっとする
松山の竹細工は、型を使わず不規則に編む、「やちらら編み(やたら編み)」が特徴。

和釘

古建築に欠かせない
“千年の釘”で知られる和釘。和釘鍛造の名工・白鷹幸伯さんの作品は薬師寺西塔再建や松山城天守修理などに使われています。

姫てまり

色とりどりの鮮やかな花模様
約100種類の人絹糸が使われる色鮮やかで艶やかなてまり。土台からすべて伝統工芸士が手作りしています。